

更ニ又之ニ六個ヲ加ヘンコトヲ專ス爾左ノ如シ	即、II 印の誤ナラン
第十村堰埭ノ直上ニ	
今切側榎瀬川ニ	
別宮側榎瀬川ニ	
鮎喰川口ノ上別宮川ニ	
徳島市中津田川ニ	
撫養海峽ニ	
凡ソ水位尺ノ設置アル所ニ多少潮汐消長ノ感動アレバ必ス	事歟。II 事項
各潮ノ最高最卑ノ両水位ヲ点検センヲ專ス是レ毎所ノ干満	
逐一ノ程度ヲ知ラントスルニ甚タ緊要ノ事歟ナルカ故ナリ	
合計 六個	
○吉野川ノ詠説	
方何及長サノ事	
吉野川ハ四國全島ニ最大無雙ノ一川ナリ全島ノ貨適ネク山	適ネク。すべて
地ニシテ所々絶高ノ山嶽ヲ抜ク、是ヲ以テ吉野川ハ其上流	カシツ
ヨリ海邊ニ至ル迄一大洶流ノ状ヲナス	潮流。II 山と山との間の流れ

さらにこれに六個を加える必要がある。それは次の箇所である。

第十村の堰の直上に
 今切側の榎瀬川に
 別宮側の榎瀬川に
 鮎喰川口の上別宮川に
 徳島市中の津田川（新町川）に
 撫養海峽に

合計六個

およそ、水位尺の設置する所に、少しでも潮位の上下があれば必ずその最高最低の水位を調査する必要がある。これは各所の干満を詳しく知るためには、甚だ緊急の事項であるからである。

吉野川の総説

1 方向と長さのこと

吉野川は四国最大の比類なき川である。四国全島は全て山地であって、所どころに高峻な山岳がそびえている。このため吉野川は上流より海辺に至るまで、大きな一大溪流の状態をなしている。

※1 榎瀬川
 現在の榎瀬江湖川

※2 上別宮川
 固有名詞でなく、付図より鮎喰川合流点より上流の別宮川と推定される。

※3 撫養海峽
 付図より小鳴門海峽か

金川一級ノ方向タルマ少許南流スル西ノ一隅ヨリ少許北偏スル東ニ流行ス而シテ大略北緯三十四度ヲ傳ヘリ且ツ此島ノ延長スル方向モ亦大抵之ニ同シ
 水源ハ阿波、土佐、讃岐、伊豫ノ諸山ニ在リ
 阿波・海岸ヨリ上流ニ湖リ川口村流又ニ至近ハ此川ノ長ニ十七里アリ更ニ其上流土佐ヨリ出ツル土佐川ノ長二十五里アリ總計吉野川ノ長サハ五十二里ナリ
 右下流ノ二十七里間ハ舟楫ノ航通ニ便ス

流域ノ事

吉野川流域ノ面積ハ文部省出版ノ地図ニ據レハ左ノ如シ
 阿波ニ 百四十五平方里アリ 平地及流尾ノ洲嶼ヲ包括
 土佐ニ 七十一平方里ニ分一アリ 都テ高山ノ地ナリ
 伊豫ニ 二十二平方里アリ 同右
 讃岐ニ 二平方里ニ分一アリ 同右
 合計二百四十一平方里ナリ

少許北偏

流又ニ 合流点

五十二里ハ一里は四折であるから
 舟楫・ハふねとかい

都テ高山ノ地ナリ

吉野川全体ノ方向ハ、四国ノ少し南寄り西方より、少し北寄りノ東へ流れる。そしておよそ北緯三四度に沿って流れる。またこの島（四国）ノ延びる方向もおよそこれと同じである。
 水源ハ阿波、土佐、讃岐、伊予ノ諸山にある。
 阿波ノ海岸より上流にさかのぼり川口村（山城町川口）ノ合流点までは長さ二十七里ある。さらにその上流ノ土佐国より流れる主流（本流）ノ長さは二五里である。合計して吉野川ノ長さは五二里である。

この下流の二七里の間は、舟の交通に便利である。

流域ノこと

吉野川流域ノ面積ハ、文部省出版ノ地図によると、
 阿波 一四五、〇平方里 平地と川口ノ洲嶼を含む
 土佐 七一、五平方里 すべて山地
 伊予 二二、〇平方里 同右
 讃岐 二、五平方里 同右
 合計 二四一、〇平方里